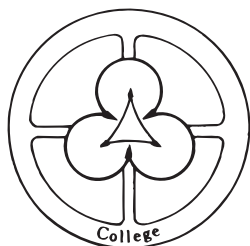


# 翻 明

— SHINONOME —



2022年度

(松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 チャペル・トーク集9号)

「われ、<sup>しのめ</sup>黎明をよびさまさん。」（『詩篇』 57：8）

## はじめに

『黎明』をお届けします。今年度は「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。」（イザヤ書四一章一〇節a）の聖句をもとに「いつも共に生きる」をテーマに掲げ、計二三回のチャペル・アワーを実施することができました。ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染防止のため、讃美歌は演奏のみの演奏となりましたが、アドベントには、学生奉仕者による賛美リードを行うことができました。久しぶりに歌声の響く幸いなクリスマス・チャペルを実施することができました。

チャペル・アワーは、近隣の教会の皆さま、講話を賜って下さった方々、教職員・学生の皆さまの奉仕により守られてきました。深く感謝申し上げます。これからも私どもが他者と共に歩み続けることができますよう、お祈りください。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学のチャペル・アワーの歩みを覚え、ご一読頂ければ幸いです。

## 目次

|                           |                      |                  |            |        |      |    |
|---------------------------|----------------------|------------------|------------|--------|------|----|
| 二〇二二年度前学期始業チャペル・新人生歓迎チャペル | 隣人を讃える……………          | 女子大学・短期大学        | 学長         | 高橋圭三   | 3    |    |
| イースター・チャペル                | 卵の中身は何でしょう？……………     | 松山東雲学園           | 宗教主事／中・高教諭 | 水島祥子   | 13   |    |
| 〈開学記念チャペル〉                | 人間としての基礎力と女性の品格…………… | 松山東雲学園           | 理事長        | 小西靖洋   | 17   |    |
| 〈春季特別礼拝〉                  | 一葉と一枚の葉と……………        | 日本基督教団           | 松山教会       | 牧師     | 上島一高 | 21 |
| 自分の良いところ、気づいてる？……………      | 短期大学保育科              | 教員               | 檜林衿子       | 29     |      |    |
| 二〇二二年度前学期終業チャペル           | 組織について……………          | 短期大学副学長／現代ビジネス学科 | 教員         | 水代仁    | 31   |    |
| 二〇二二年度後学期始業チャペル           | 何もないところからのスタート……………  | 松山東雲学園           | 宗教主事／中・高教諭 | 水島祥子   | 34   |    |
| 聖書って面白い！……………             | 短期大学保育科              | 教員               | 加納章        | 38     |      |    |
| かいじゅうたちの野生の世界             | モーリス・センダックさく……………    | 女子大学心理福祉専攻       | 教員         | 門田リンダ恵 | 41   |    |
| 〈アドヴェント・チャペル〉             | 何もないところに現れる愛……………    | 松山東雲学園           | 宗教主事／中・高教諭 | 水島祥子   | 46   |    |

## 二〇二二年度前学期始業チャペル・

### 新人生歓迎チャペル

#### 隣人を讃える

女子大学・短期大学学長

#### 高橋圭三

キリスト教センターからいただいた今年度のテーマは「いつも共に生きる」というテーマをいただきました。「いつも共に生きる」ということで、どのようなお話を提供しようかと色々と考えた挙句、身近な人々に寄り添い良い関係性を自然に、ということでお話を進めてみようと思います。

いきなりですが、さて、この人物は？皆さんも見たことがあると思います……。福沢諭吉です。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と自由平等を謳ったのは有名です。彼の多くの名言の中で一九〇〇年に編纂した修身要領の中で次の様な事を言っています。

社会共存の道は、人々自ら権利をまもり幸福を

求むると同時に、他人の権利幸福を尊重し、いやしくもこれを侵すことなく、もって自他の独立自尊を傷つけざるにあり。自分自身にも他人にも権利と幸福を求め、その独立や自尊を蔑ろにしているけませんよ。と言っています。現在はダイバーシティ（多様性）促進の取り組みがさまざまなところで叫ばれています。誰もが孤立排除されず、それぞれの能力を発揮し、支えあう社会が求められています。一二〇年も前に現在の社会のあり方を当時の世相を見ながら予見していたのでしょうか。この一万円札が出始めたのは一九八四年昭和五十九年一月からですが、それ以前に一万円札の肖像画は誰だったのでしょうか？

聖徳太子です。この一万円札は一九五八年昭和三十三年二月から一九八六年昭和六一年一月まで発行されています。聖徳太子のことは社会科等で習ったと思われます。この聖徳太子もまた十七条憲法の中で共に生きるということについて形を変えて述べています。十七条憲法は現在の日本の憲法とは違って、当時の官僚や貴族など治世に携わる人たちへの道徳規範などを示したものでした。

特に第一条は千数百年前に聖徳太子が十七条憲

法の中でやわらぎをもって とうとしとなし さかふることなきをむねとなす。和を大切にし、人といさかいをせぬようにしなさい。人にはそれぞれつきあいというものがあるが、この世に理想的な人格者というのはそう多くいるはずはない。だから、ややもすると目上の人や親に従わなかったり、身近な人々と仲たがいを起こしたりする。しかし、上司と部下がにこやかに仲むつまじく話し合えば、自然と事は筋道にかない、どんな事でもうまくいく。というような意味です。仲間や同僚を大切にすればうまくことが運ぶという様なことを様々な人が表現の違いはあるけれど口にしていきます。iPhone よく知られているAppleの共同創業者のひとりであるスティーブ・ジョブズは「ビジネスにおける偉大な仕事というのは、ひとりが成し遂げたものであった試しはない。チームが成し遂げるのである」と言っています。現代はいつの頃からか競争社会という意味合いが強くなり、他人を蹴落としてでも人の上に立つことが良いという様な風潮が広がっています。他人を蹴落としてその組織や社会の中で一番になったとしてもそれは本当に幸せなことなのでしょうか。一番

になった人以外は全員敗者であるということになります。ですから、競争社会を肯定すればするほど、そのような敗者の気持ちを抱どの人が経験する社会となってしまう。極端な例を示すとスポーツの世界で金メダルを獲得した者以外の人たちは、次はその上を狙っているということです。からね。地球の全人口のうち金メダル、世界一は世界にひとりしかいません。金メダルと言わずとも現代は幼児の頃からどつぷりと競争社会を意識させられる世の中の様です。聖徳太子は人と人が対峙して世の中を生きていくよりもお互いの存在を尊重しあって和の心で生活すると穏やかに過ごせると言っています。同じ様なことを古代ギリシャの哲学者であるアリストテレスは「全体は部分の総和に勝る」と表現しています。社会は人の集合体で構成されています。共通の目的を持った集合体であるグループについて言うならば、最も優れたグループは必ずしも最も優れたメンバーで構成されたグループではなく、そのグループが全体として何をもっているかが重要なのであって構成メンバーの個人が何をもっているかが重要なのではないということです。

ちなみに、二〇二四年度からは日本の資本主義の父とも言われている渋沢栄一が一万円札の顔となる様です。彼は江戸から明治にかけて日本を牽引したとも言えます。特に一八六七年の第二回パリ万国博覧会に参加し多くの感銘を受けた様です。その後帰国してからは、私欲により利益を独り占めにする事を否定し、公益を大切に社会活動、経済活動を展開し日本社会全体の発展をめざしました。彼もまた、チャペルの今年のテーマ「いつも共に生きる」を実践した人ではないかと思えます。

一番になる事を目指す競争社会というのは自由競争社会として、近代では文化文明を発展させると考えられてきました。アダム・グラントのGive and Take (邦訳: Give & Take 「与える人」こそ成功する時代)において、人を利用して勝利した人間がいれば、そこには必ず勝利を奪われた人間がいると言っています。敗者は成功した人間を妬み、その鼻をへし折ってやりたいと思うのが常です。でも、逆にいつも人に恩恵を与えている人、または自分自身を常に励ましてくれたり、助けたりと自分自身のモチベーションを高め

る様な接し方をしている人が何かに勝利すると、我々は声援を送り、引き摺り下ろそうとすることなく彼を積極的にサポートしようとしめます。ほんの些細なことでも、常に他人、隣人を褒め称えることに抵抗なく人の素晴らしさを認める習慣のある人はその効果が回り回って自分自身の生活を快適なものにしてくれることになる様です。

皆さんは他人を褒め称えるということがどれくらいの頻度であるでしょうか？ 家族を褒める？ 隣近所の人を褒める？ 友達や学友を褒める？ 私たちは褒めてもらえると嬉しい気持ちになり、褒められたことに対して次へのモチベーションが高まることを経験的に知っています。でも、自分から積極的に他人を褒めようとはしません。なぜでしょう。古い昔から人類は共存して生きてきました。いがみあって生活するよりお互いの生命を安全で平和に共存する方が穏やかな生活が得られるはずです。文化生活を共にする同胞と穏やかに共存するためにはお互いを認め、リスペクトする中で争い事を避けることができるのではないのでしょうか。大東亜戦争、第二次世界大戦以後、マッカーサーを中心にした General Headquarters

GHQと言われる進駐軍の日本占領以後、新自由主義の名の下に日本人の太古の昔から伝わる和の心を半ば否定し、自由競争によって社会を進展させようとしてきました。ほとんどの日本人が戦後生まれとなってきた今、新自由主義はさまざまな分野でかつての「おかげさま」「お互いさま」「もったいない」と言った人や物を大切にする日本人の精神が薄くなってきた様に思われます。人を認めることで人の輪や絆を大切にしてきた文化はそれそれが属するグループ集団に対して自然災害を含め地域社会の課題を前向きに積極的に取り組み良い解決策を創造しようとしてきました。ではどれくらいの頻度で他人を認め誉めれば平和な地域社会を構築できるのでしょうか。

心理学者でありビジネスコンサルタントでもあるマルシャル・ロサダが発見した数字（二・九〇―一三）があります。これはポジティブ対ネガティブの割合と考えて結構です。何に対するポジティブとネガティブの割合かというと。彼は一〇年間にわたり、業績の良いチームと悪いチームを研究しました。そして、その膨大な数学的モデルに基づいて、ビジネスチームに成功をもたらすた

めには「メンバー間のポジティブな相互作用とネガティブな相互作用の比率」が、最低でも二・九〇―一三対一でなければならないことを突き止めました。つまり、ひとつのネガティブな意見や経験や表現の悪影響を打ち消すのに、三倍の量のポジティブな意見や経験や表現が必要ということの様です。この転換点は最近では「ロサダライン」と呼ばれています。ポジティブとネガティブの割合がこのライン以下だと、チームの仕事ぶりは一気に落ち込みます。ラインを上回る比率であれば、チームは能力を最大限に発揮することができます。調査結果によれば、ポジティブ対ネガティブが、六対一くらいが理想だといわれています。つまり、ひとつのチームが良い結果を出すためには、他人の欠点や失敗を指摘し、そこを改善する様に促すよりも、些細なことでも褒めてチーム全体が良い関係性をもつことの方が最終的にはチーム全体でのパフォーマンスが上がるということです。仮に、失敗を克服し逆境から立ち直り、頂点に立ったとしてもそれは単に個人ひとりだけの業績であって、いつかそのポジションは誰かに奪われる競争社会であり、安定した穏やかな生活

は永遠には継続できないということの様です。ですから、身近な人の良いところを見つけ誉める、福沢諭吉のいった権利と幸福を尊重することが自他の独立自尊を支えるのだろうと考えます。他人を誉めることは自分自身を決して卑下することではありません。聖徳太子のいう「和も以って貴し」も同じ意味であろうと思います。

マズローの欲求の階層説の中でも我々の欲求は五つの階層ヒエラルキーになっていて、生理的欲求、安全の欲求、社会的欲求、四つめのヒラルキーに承認欲求があります。そしてそれらの欲求を充足されて初めて自己実現欲求が出てきます。自己実現欲求は自分自身の心の中のひらめきや自分自身の可能性、そして自分自身に課せられた使命を目指す欲求です。つまり成りたい自分、人生の目的を求めるには承認欲求を充足することができないと、さらに次の自己実現欲求に届かないということでしょうか。マズローは欲求の五段階を発表した後、六番目の欲求である超越自我欲求を発表しています。ざっくりいうと「悟り」への欲求です。この境地に達することのできる人はほんのごく一部であると言われています。我々は他

人から認められること、褒められることによって感情がポジティブになります。ただし、否定され続けた生育史をもつ人たちのごく一部には褒められる事を極端に嫌がる人たちがいます。これは、例えばテストで九四点をとって親から褒められると次はそれ以上の点を取らないといけなさと自分自身にプレッシャーをかけ辛い思いをしている子どもがいるのも事実です。かつて埼玉の発達障害支援センターでセンター長をしていた頃、私のクライエントの中でその様な子どもが数名いました。親子の間の関係性、特に母親の子ども観や何気なく子どもに声を掛けるその一言を意識してもらうことでもかなり時間はかかりましたが徐々に改善していきました。

ですから、所属する集団やグループの中で認められる回数が多いということは、先程お話ししたロサダラインの三対一あるいは六対一でネガティブな経験や関係性を相殺してくれるものであると言えます。そしてそのポジティブな感情によって脳はドーパミンやセロトニンといった化学物質で満たされます。それらは単に気分を良くするだけでなく、記憶が長く保たれ、後でそれらの記憶を

素早く取り出せる様になります。また神経細胞の連絡が密になり、そのために素早くクリエイトに考えられる様になる様です。その結果、複雑な分析や問題解決が上手くでき、新たな方法を見出したり発明したりすることも効率よくできる様になることが分かっていきます。先にも話したように人類は社会性の強い生き物で、自分自身が所属する集団に対して常に**和**、**絆**、**繋がり**というものを大切にして進化してきました。ただし、行きすぎたナショナリズムやローカリズムはややもすると他の民族や国家を排他的にみてしまうことがありますので、常に振り返ることが大切となります。

また、ジェームス・ラブロックがガイア理論で言うように**地球はひとつの生命体**として捉える必要があるかもしれません。そうすると、地球上の人類全ては同胞であり、同時に地球上に生息する人類以外の動植物を含め、山や川そして海までもひとつの生命体として大切な存在であると思います。地球規模で考えると我々が生活する日常的な利益を共にする集団というのはほんの小さな集まりにしかありません。その中で競争して勝利を得たところで得るものは個人的な達成感と自己満足

だけかもしれません。むしろ、長期的には孤立とその地位からの転落の不安を抱えたままの生活の方が大きくのしかかり、心の安定を求めるのは困難となるかもしれません。そうであるならば、他人、隣人の心を和ませ同時に所属するチーム、グループに平和と安定そして親和性をもたらずアプローチが自分自身の生活をより快適にする方法論として見えてくるのではないでしょうか。地球規模と同様に我々個人の身体も多くの生命の集合体であるという事をご存知でしょうか。

我々の身体は近年の研究から、およそ三七兆個の細胞でできていると言われています。それらの真核細胞の一つの中には一〇〇個から二、〇〇〇個のミトコンドリアがあるとされています。このミトコンドリアは独自のDNAを保有しており、我々の身体を構成する真核細胞が太古の昔に細胞内に取り込んだ別の生命体であると考えられています。このミトコンドリアはご存知のようにアデノシン三リン酸（ATP）というエネルギーを産生して我々の命の活動を支えています。我々は常に意識はしていませんがこの細胞内に別の生物を取り込んで共生しているといっ

も良いかも知れません。また、我々の腸には最近ダイエット関連の記述で腸内フローラという言葉に耳にしたことがあるだろうと思います。

人の腸の中にはおよそ一、〇〇〇種類以上、一〇〇兆個の細菌が住み着いていると言われています。顕微鏡で見るとまるでお花畑のように腸内細菌叢があることから腸内フローラと言われています。これらの腸内細菌には善玉菌、悪玉菌、日和見菌の三種類があつて体の調子を保っている様です。特に善玉菌はビタミン合成や消化吸収の補助、感染防御、免疫刺激等、健康維持には欠かせない我々の腸内に生息する生物です。つまり、地球規模にしてもひとりの人間個人としても単独では生命を維持することは難しく、意識する、しないに関わらず、いろいろな物や生物と関係を保ちながら、我々は生活しているということです。ですから、同じ地域社会に住む、同じ集団、同じグループの身近な他者の存在を意識して敬意と尊敬をもつて接することが大切なのだと思います。

他者を認め隣人を褒め称えることで、そこには同族意識が強固なものとなっていく様です。我々人類ひとりひとりとはとても弱い存在です。常に目

前の課題に迷いを生じます。特に今の時代は多くの情報の中に晒されて生活しています。Social Networking Service (SNS) ではフェイクニュースや個人への誹謗中傷が絶えず、正確で正しい情報ばかりとは言えません。私たちは弱い人間です。だからこそ今の時代に考えることが多いのです。でも大切なのは人の命。人の命を大切にすることが一番大切だと思います。人の命を大切にすることというのは実はそれは自分自身を大切にすることということに他なりません。我々人類は周囲からの支えが必要です。と言うのは、気持ちの問題だけではありません。同じ社会に属し、絆を作りたいと言うニーズは人間の生物的本能であると言われています。良好な社会的繋がりができると、我々に喜びを生じさせるオキシトシンが血中に放出されます。そして、不安をたちまち鎮め、集中力を増す様です。また社会的絆のそれぞれが、心臓血管系、神経内分泌、免疫のシステムを活性化させるので、そう言う絆を数多く持つほど、頭も体もより良く働く様になると言われています。つまりは、所属するチームやグループひいては社会に貢献できるチャンスと社会に良い結果をもたら

することが可能となるのです。

絆ということで思い出されるのは日本を襲った災害で競争社会とは反対の自主活動ではないでしょうか。平成の時代に起こった近年の大きな地震災害を挙げるとこのような震災がありました。特に、阪神・淡路大震災の時には国の初動が遅れ、結局自主的な民間ボランティアの初期活動により、多くの命と生活パイプラインを確保することができました。この様な大災害の対応について、以後は国の対応の遅さを待つよりも小回りの効く小さな規模で素早い対応のできる組織の重要性がクローズアップされNPO活動が盛んになりました。特に、東日本大震災の時にはあまり知られていないことのひとつに当時自衛隊の火箱芳文幕僚長は自衛隊の指揮権を持っていないにも関わらず、辞任覚悟で震災発生から三〇分で自衛隊三万人近い部隊に出動命令を出しました。本来ならば、都道府県知事からの要請を受けて総幕僚長が出動命令を出し、それを受けて幕僚長が措置する様です。あるいは緊急時には自主的に防衛大臣から総幕僚長に災害出動命令を出し対応するのが本来の命令系統です。しかし、そのような事を拘

子定規に行っていたのでは初動対応の遅れで助かる命も助かりません。現在の日本では法令遵守コンプライアンスが強く求められています。それは平常時の生活の中で言える事です。人類は同胞が傷つき困惑している時には自然と助けの手を伸ばす事が心の深いところに組み込まれている様です。特に他人の命に関わることに關しては迅速な行動や思いもしないような強い能力が発揮されることがある様です。人間は他者の行動や感情を自分のものとして捉えるミラーニューロンがあることで、他人の喜びや悲しみが伝搬する様です。だからこそ、社会性を強くもった生き物であると言えます。

この二年間ほど、世界は新型コロナウイルスによって対面での活動に大きな制限がありました。対面していたとしてもマスクをして表情が十分読み取れないような生活を余儀なくされました。個人的にはこの時代に生を受けた赤ちゃんたちの認知度があると、表情、感情の理解はどのように発達するのだろうかとか心配しております。発達には学習の臨界期というのがあって、学習の時期を逸してしまうと後で多大な努力が必要になると言われて

います。このコロナ禍で育った赤ちゃん、子どもたちの社会性の獲得に問題がなければ良いのにも思っています。大学でも、遠隔授業が中心となり、対面での授業が制限されました。これは感染拡大を抑制するには必要なことでしたが、学習効率ということではどうだったのでしょうか。二〇一四年にミネルバ大学がカリフォルニア州サンフランシスコに本部をおいて開学しました。ミネルバ大学への入学生はハーバードを蹴ってまで入学希望が跡を立たない超難関校となっています。合格率は二%未満ということから難関度がわかると思います。この大学は少数精鋭オンラインの徹底ということでキャンパスを持たない大学だそうです。ただし、世界の各地にある七つの学生寮を集団で渡り歩きフィールドワークをするそうです。キャンパスを持たない大学といえども、対面での関わりを大切にしているのだと思います。

さらに、コンピュータ産業で名を馳せたIBMですが、IBMは二〇一七年に、社員に在宅勤務の選択肢を与えることをやめました。「えっ」と思われるかもしれませんが。コロナで在宅勤務が今まで以上に増えてきているのに、と思うでしょ

う。IBMはコロナ以前にこの在宅勤務の不利益を見出し、勤務形態を軌道修正しました。IBMはそれ以前にはテレコミュニケーションの流行を牽引してきただけでなく、それを可能にするテクノロジーの多くを提供してきた会社だけに、IBMが完全な方向転換に踏み切ったというのは画期的なことでした。在宅勤務を奨励すれば、オフィスのスペースを約七二五万㎡節約でき、そのスペースを売却すれば一九億ドルになるという試算が出て以来、IBMが在宅勤務を支持してきたことは有名です。一時は社員の四〇%が、自宅または会社以外の別の離れた場所で働いていました。IBMはまた、在宅勤務は優れた勤務形態であることを実証する研究も支援していた様です。しかし、IBMがたどり着いた結論は、在宅勤務の奨励よりも、社員は他の人々に囲まれている方が、仕事も早く、より創造的で、より協調的に働くというものだった様です。自宅で働く方が、終業時刻がないので長時間働くのではないかと思いがちです。しかし、最新の研究結果によれば、少々の生産性の増加などは、物理的空間を共にする仲間の存在から得られるイノベーション、創造

性社会的繋がり、帰属意識、会社に対する忠誠心などの大きさに比べると、微々たるものだそうです。現代の社会では、人が達成できることの「制限要因」は、その人にどれだけの能力があるかではなく、その人が意味ある人間関係をどのくらい持っているかであるということの様です。対面で得られる効果は計り知れないものがある様です。最後にお互いの存在を尊重し、認め合い平和な世界を望む歌。ジョンレノンのイマジンを紹介します。

人との繋がり大切さを「隣人を讃える」ということでお話ししましたが、まだまだコロナの感染対策は継続しています。気を緩めることなく、十分な感染対策をして一八歳成人の大人として学生生活を楽しんでください。

(二〇二二年四月二二日)

#### IMAGINE

Imagine there's no heaven  
It's easy if you try  
No hell below us  
Above us, only sky  
Imagine all the people  
Living for today

Imagine there's no countries  
It isn't hard to do  
Nothing to kill or die for  
And no religion too  
Imagine all the people  
Living life in peace

You may say I'm a dreamer  
But I'm not the only one  
I hope someday you'll join us  
And the world will be as on

Imagine no possessions  
Imagine if you can  
No need for greed or hunger  
A brotherhood of man  
Imagine all the people  
Sharing all the world

You may say I'm a dreamer  
But I'm not the only one  
I hope someday you'll join us  
And the world will live as one

#### イマジン

想像してごらん 天国なんて無いんだ  
簡単だろう  
地面の下に地獄なんて無いし  
我々の上には ただ空があるだけ  
想像してみても、  
皆んながただ生きてるだけ

想像してみても 国なんて無いんだ  
そんなに難しくないだろう  
殺す理由も死ぬ理由も無く  
そして宗教も無い  
想像してみても みんなが  
ただ平和に生きていること

人は夢追い人と言うかもしれない  
でも一人じゃない  
いつかみんな仲間になって  
きっと世界はひとつになる

想像してみても 何も持たないこと  
君なら出来る  
欲張ったり飢えることも無い  
みんな兄弟なんだ  
想像してみても みんなが  
世界を分かち合う

夢追い人と言うかもしれない  
でも一人じゃない  
いつかみんな仲間になって  
そして世界はきっとひとつになる

イースター・チャペル

## 「卵の中身は何でしょう?」

松山東雲学園 宗教主事／中・高教諭

水 島 祥 子

皆さん、おはようございます。今日はイエスが復活したことをお祝いするイースター・チャペルです。キリスト教では三つのお祭りがあります。一つは皆さんもよく知っているクリスマス、イエスが誕生したことをお祝いするお祭りです。もう一つがイースター、十字架で死んだはずのイエスが復活したことをお祝いするお祭りです。もう一つは、ペンテコステ、キリスト教の教会ができたことをお祝いするお祭りです。クリスマス、イースター、ペンテコステのうち、三月から四月のお祝いがイースターになります。イースターには、子どもたちが庭に隠されている「卵探し」をしたり、卵の殻をきれいに塗る・染めるなどした「卵飾り」を作ったりして、楽しんでお祝いすることがあります。また、イースターには、卵をメイン料理にして、家族や近所の人と食事をしてお祝い

することもあります。

今日のお話は「卵の中身は何でしょう」とタイトルを付けました。卵の中身、皆さんは何だと思っていますか?

キリスト教の教会ができたのは、イエスが十字架で死んで、復活して四〇日間だけ地上にいて、その後天に引き上げられてから、イエスのお弟子さんたちを中心に集まっているときに不思議な風が吹いてきて、皆が出身地以外の言葉でイエスのことを語り出した、それでたくさんの方がキリスト教を信じる仲間になった、というものです。にわかには信じられないような不思議な出来事が起こったと聖書には書かれています。今から二〇〇〇年近く前に遠い地中海沿岸でキリスト教の教会ができたことなど、わたしには関係ないと思ってしまうがちですが、実は皆さんにも大いに関係があるのです。ここ松山東雲学園は、キリスト教の教会に一人の少女が学びを続けたい、とある牧師を訪ねたところから始まっています。そこから一三六年目の歩みになるわけです。普段わたしは中学・高等学校のある大街道キャンパスにおりますが、そこにも昔中高で働いていたことを懐

かしんで訪ねてくださる牧師がおられたり、何十年も前に学んでいたという卒業生からお便りが届いたりして、遠方に暮らしていてもいつも今の東雲のことを気にかけてお祈りしお支えてくださっていることを感じられます。皆さんはたくさんの方に祈られ、支えられているのですね。こんなにありがたいことはないですね。まさに今年度のチャペルのテーマ「いつも共に生きる」の通りです。

さて、今日の聖書箇所はイエスの復活の場面でした。皆さんの持っている聖書には四つの福音書があります。クリスマススの場面が描かれているのはそのうちたった二つの福音書ですが、イエスが復活した場面は四つの福音書すべてに記されています。それだけ衝撃が大きかった、影響が大きかったからでしょう。復活の場面にはマグダラのマリヤが登場しています。この人は、自分の好きだったイエスが十字架で殺されてしまい、本当はとても落ち込んでいました。自分たちの貧しい生活を何とかしてくれる救い主だと期待していたのに、殺されてしまったからです。移動が制限されている安息日が終わってすぐ、日曜日の朝早く

にお墓に行ってみました。でもイエスのお墓に着くと、驚くことが待っていました。大きな岩で入口が塞がれていたはずなのに、岩は転がされて入口が開いていたのです。さらに、驚くのはここからでした。イエスの遺体すらなく、イエスを包んでいた亜麻布があっただけでした。それを見たマリヤは、誰かがイエスの遺体を盗んでしまったのだ、返してほしい、返してくれるのなら引き取りに行かなくては、と思いました。

マリヤはイエスさまがもう死んでしまったと思って、お墓の外で泣いていました。マリヤに声をかけた二人の天使が墓の中にいました。死者の中にイエスさまを探しましたが、見つけれませんでした。イエスと一緒に生きていけるという希望が失望に変わってしまいました。お墓の中、それは死者がいる場所です。そこにはイエスはいません。イエスはすでに復活していたからです。そこへ、お墓の外から声を掛ける人がいました。イエスです。マリヤの視線はお墓の中から外へ、つまり生きている人たちの世界へと向けられました。最初はイエスだと気づくことができなかったマリヤ。大きな失望でショックが大きすぎて、涙

が止まらなかったのでしょうか。泣くとき、わたしたちは目をつぶるかうつむくかになります。つまり周囲を見る余裕がありません。そこへイエスは生前いつも呼びかけていたように、「マリヤ」と名前を呼びます。名前を呼ぶ、という行為は大変大きい意味があります。あなたがあなたである、と認識していますよ、という意味合いがあるからです。このとき、やっとマリヤは声の主がイエスだと気づくことができました。マリヤは、もうイエスと離れるものかと、すがりつきます。でも、イエスはそれを止めさせました。なぜでしょうか。……イエスはマリヤに自分の足で立って、自分の考えのもとに自由に行動してほしかったからです。抱き着いたままでは、イエスもマリヤも自由に動くことができません。それではダメだ、自分の足でしっかりと歩めというのです。そのイエスの意志を理解したマリヤは、イエスにすがりつくのは止め、自分がお墓で体験したことを他のお弟子さんたちに伝えに行きました。

イエスは十字架で死ぬとき、皆が落ち込んだままではいけない、もう一度自分と一緒にやってきた周りの人を愛することを今度は自分たちが周り

の人たちにする番だと気づいてもらうために、もう一度皆の前に姿を現すことにしたのです。だからイエスは十字架で死にましたが、もう一度皆に生きる勇気を与えるために、イエスに従っていたお弟子さんたちに現れました。つまり、復活して生きる者となったのです。復活後のイエスに出会ったお弟子さんたちは勇気をもらって、イエスがされてきたように、今度は自分たちが周りの人々を愛する行動を次々に行っていくことができました。

イエスに出会ったお弟子さんたちは、生前のイエスがしてきたように、自分たちから貧しい人たちと出会っていき、一緒にご飯を分かち合って食べ、病氣の人をお見舞いして励まし、独りぼっちで生きる勇気を持ってない人たちに声を掛けて一緒に過ごしていく仲間になっていきました。

わたしたちも直接はイエスに出会っていませんが、聖書を通してイエスの生き様に触れることができます。聖書には、神さまがどれだけわたしたちひとりひとりを愛しておられて、わたしたちが周りの人たちとどのように一緒に生きていけばよいか、が書かれています。卵の中身が何だか、わ

かりましたか。イエスの復活をお祝いして、卵探しや卵飾りをしますが、その中には「いのち」があります。イエスの復活をお祝いするイースターを迎えました。イエスが皆を励ますために、十字架での死後、もう一度現れました。わたしたちも勇気を与えられて活き活きと生きていくことができるように、イエスと出会った「新しいわたし」として周りの人たちを愛し、周りの人たちに仕える生き方をしていきましょう。

(二〇二二年四月一九日)

## 開学記念チャペル

### 人間としての基礎力と女性の品格

松山東雲学園 理事長

小西 靖 洋

今、ウクライナとロシアとの戦闘が繰り広げられています。誰もが想像もしなかった国同士の戦いです。第三次世界戦争という人もいます。しかし、このまま拡大し続ければ本当に第三次世界戦争になってしまいます。毎日多くの市民が被害され、その悲劇は目を覆う悲惨な状況です。すでに二か月が過ぎましたが、依然としてその収束は見えていません。いかにイデオロギーの違い、歴史認識の違いなどがあつたとしても、武器をもつて争うことは許されません。早く平和が訪れてくれることを望むばかりです。

また、コロナウイルス感染が世界を席巻しています。過去に遡れば、スペイン風邪により、世界で多くの死者を出しましたが、今回のコロナウイルス感染は、二年が過ぎても次から次へと変異し、その感染力が衰えることはありません。世界

ではすでに五億人以上の感染者が数えられています。新たな薬が開発され、一日も早くコロナウイルスが絶滅してくれることを期待しています。

おはようございます。理事長の小西です。年に一度、皆さんにお話をする機会がこのチャペルアワーです。ゴールデンウィークが終わりましたが、皆さんは五月病になっていませんか。入学時からの緊張がいつぱんにほぐれ、急に力が抜けた状態を五月病といいます。そのような方は、もう一度、初心に帰って、この学園に入学した目的を思い起してください。五月病になっている暇はありません。

それぞれの目標に向かって頑張るためには、しっかりと準備をしておくことが大切です。聖書のなかにもつぎのような言葉が書かれています。

テモテへの手紙Ⅰ 六章一八—一九節「善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで分け与えるように。真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くようにと。」と書かれています。

五月三日の朝日新聞の朝刊に「夢への挑戦 何

歳からだって」という記事が掲載されていました。今年の春、東雲女子大学を卒業した岡市初枝さんに関する記事でした。彼女は、高校卒業時に大学への進学を希望しましたが、家族に反対され、そのまま就職しましたが、ずっと大学で勉強したいという希望をもっていたそうです。転機は、六〇歳で退職し、子育てでも卒業、子どもたちも自立した年に、社会人入試で東雲女子大学の心理福祉専攻に六一歳で入学しました。苦難の連続と本人は言っていますが、自分より若い同級生との活動は大変な事だったようです。だけど、彼女は「キャンパスにいる間は二〇歳なんですよ」と頑張り、六五歳で卒業しました。ところが、大学に入ったら別の世界が見えてきた。そこで、こども専攻へ編入学し、六八歳で卒業し、幼稚園の先生になりました。職場でも彼女の経験とコミュニケーション力が若い先生方を大いに刺激しているようです。

学生時代は、自由な時間がたくさんあります。特に授業以外は何をしななければならないという制限もありません。そのまま惰性に流されると、卒業が危うくなります。目標がないと人間は楽に過

ごす方へと流されます。何か学生時代にこれをマスターした、これは人に誇れるものだという「何か」をつかんでください。このことが未来への堅固な基礎を築くことを意味します。

最近、二〇〇六年に発行された昭和女子大学学長坂東真理子さんの「女性の品格」という本を手にしました。その中で気になるフレーズがありました。「自分の個性を発揮してください。というのは無責任です。」という言葉です。小学校から大学までの教育機関は、その個性を伸ばすためにしっかりと教育しなければなりません。その教育が各自の「基礎力」とならなければなりません。その基礎力がなければ「個性」は花開きません。教育に関わる全ての者がいかなる努力をしているのであろうか。心しなければならぬ文章です。「個性の花を開く」ためには、①節度のある生活習慣、②読み書き話すというコミュニケーション力（特に読書が大切。中身の無い話はすぐにみぬかれてしまいますし、語彙力がないところの琴線を震わせるようなよい文章は書きません。）、③挨拶ができる。挨拶という漢字には、挨拶は押す、拶は押し返すという意味があります。挨拶された

ら必ず挨拶を返してください。④適切な服装を身に着ける。(TPOに合った清潔な服装。)⑤お礼ができる。(日本語で最もうつくしい言葉は、ありがとうです。)

これら①から⑤までを日常化することが、個性を作り上げるために大切なことです。そして最も重要なことは「人間としての基礎力」を持つことです。と坂東先生は言っています。

「人間としての基礎力」とは何でしょうか。

①自分の生き方や行動に信念を持つこと。②相手の立場に立つて思いやることができる。③人間の弱さや不完全さを受け入れる暖かさとし優しさをもてる。④自然の美しさや健気さに心が動かされる。女性の品格はそうした強さと優しさから生まれてくる。と坂東さんは言っています。

このような女性としての資質を身に着けるためには、学生時代に多くの友達を作ることが近道ではないでしょうか。私はいまだに学生時代の友達との付き合いを大いに楽しんでいます。五〇年以上続いています。毎年、幹事がいて、いろいろな計画を立ててくれます。一泊どまりで旅をし、夜遅くまで、近況のみならず、多くの情報交換を

行っています。友達の職業は色々でした。いわゆる異業種間の交流をしているようなものです。得られる情報は自分の住む世界とはまるで違うものです。それを聞くことにより、多くの刺激を受けることになります。

すべての業種を体験することなど不可能です。しかし、友達から得られる情報は、これを可能にしてくれます。多くの友達を持てば持つほど、異なる話が聴けることになるのです。生涯を通して付き合える友達はやはり学生時代の友達でないでしょうか。皆さんもしっかりとこの学園で素晴らしい友達を見つけてください。

私の話の最後は、いつも愛媛県が誇る詩人、坂村真民さんの詩を、「花ひらく心ひらく道ひらく」から紹介することになっています。七年前も紹介しましたが、今回の話の内容から、再度「小さなおしえ」を紹介することにしました。

### 小さなおしえ

見知らぬ人でもいい　雨に濡れていたら　走って  
いって　傘に入れておやり

バスから降りるときは　疲れた車掌さんに　あり  
がとうと言っておやり

道ですれちがう　おばあさんたちには　ここえで  
あの世での　幸せを祈っておやり

目の見えない人が歩いていたら　おつ母さん  
に　なつたつもりで　手をひいておやり

ねがえりもできず　ねている人があつたら　こ  
ろぎのように　そつと片隅で　愛のうたをう  
たっておやり

小さいことでもいいのです　あなたのむねのともし  
びを　相手の人にうつしておやり

この詩のように、人間としての優しさと思いや  
りを持つことが、人間の基礎力と女性の品格を作  
り上げることになります。

ご清聴ありがとうございました。

(二〇二二年五月一〇日)

## 春季特別礼拝

### 一葉と一枚の葉と

日本基督教団松山教会 牧師

上 島 一 高

いきなりですが、お札の話です。再来年にお札の顔が入れ替わるのは知っていますよね。一万円札は思想家で教育者・福沢諭吉さんから実業家・渋沢栄一さんへ、五千円札は小説家・樋口一葉（一枚の葉）さんから教育者・津田梅子さんへ、また、千円札は医学者・野口英世さんから同じく医学者の北里柴三郎さんへ、顔ぶれが一新されます。

私は樋口一葉のファンなので、この五千円札の彼女の顔が見られなくなるのが残念です。今日は彼女のすることについてお話します。彼女の佇まいについては、鍋木清方「一葉」に描かれています。資料中段 実は、替わりに五千円札の顔となる津田梅子こそは、今の津田塾大学を創立した女子教育のパイオニアの一人であり、クリスチャンでもあるのですが。

さて、三週間ほど前、五月二日（旧暦三月二十五日）は、樋口一葉生誕一五〇周年でした。当日、たまたまラジオでそのことを知った私は、手持ちの幸田弘子朗読CD『樋口一葉作品集』の一枚に耳を傾けました。樋口一葉の作品？ その朗読を聴く？ ずいぶんマイナーな話をするなと思われる方、当然だと思っています。

今でこそ、例えば、YouTube等でも、文学作品の朗読に触れることができます。昔は、AMやFMのラジオ番組で聴いたものです。高校時代の私にとって鮮烈だったのが、その道のパイオニアである幸田弘子による樋口一葉作品の朗読でした。まずは小説『たけくらべ』の本文を目で追ってください。これを朗読します。幸田弘子とは行きませんが。

「廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お歯ぐろ溝に灯火うつる三階の騒ぎも手に取る如く、明けくれなしの車の行来にはかり知られぬ全盛をうらなひて、大音寺前と名は仏くさけれど、さりとては陽気の町と住みたる人の申しき」。少しは表情が付きましたが、まだ難しいかも知れません。でも、やがて、ここに江戸っ子の生きの良い言葉が

躍り始めます。

長吉がやがて僧侶となる信如に訴えます。「己れの為る事は乱暴だと人がいう、乱暴かも知れないが口惜しい事は口惜しいや、なあ、聞いとくれ信さん」「だから信さん友達がい、夫れはお前が嫌やだというのも知れてるけれども何卒我れの肩を持って、横町組の恥をすすぐのだから、ね、威張りおる正太郎を取りめて呉れないか」。

目で文字を追っているだけの時、擬古文である一葉作品は難解でしたが、高校生だったあの日、一葉がその作品に吹き込んだ命が、突然立ち上ったのです。『源氏物語』全巻朗読も成し遂げることになる幸田弘子は言います。「朗読は演奏です美しい日本語を あなたのいちばん深いところへ届けるための 声による演奏なのです」『朗読のたのしみ』二〇〇二。

因みに、「廻れば大門」は、既婚女性を演じる花魁の「お蘭ぐろ」を流す「溝」に囲われた遊郭の門、裏手の大音寺前での生業は吉原が頼り。主人公・美登里たちは、屈託ない子どもの世界から、まもなく金銭が全ての大人の世界へと移される（友情で繋がるのが、廊の中と外、金で繋がる）

直前の、脆くも輝かしい命と感性を見せます。美登里が言います。

「何時までも何時までも人形と紙雛<sup>あひな</sup>さまとを相手にして飯事<sup>めしごと</sup>ばかりして居たら嘸<sup>さへ</sup>かし嬉しき事ならんを、ええ厭や厭や、大人に成るのは厭やな事、何故このように年をば取る、最う七月十月、一年も以前<sup>もと</sup>へ帰りたいに」。朗読で、その声、息遣いに触れる時、聴く者は、胸の痛みを感じないではおれません。

これとは状況が全く違うものの、私は大学時代の女友達（幼児教育科の学生）が、二〇歳を迎える際、大人の世界に入ることへの切実な抗いを声に出していたことを思い出します。京都人だったので、こんな風に。「厭や、二〇歳になんのか、ほんまに厭やわあ」。私はそれを聴きながら、何の感慨もなく迎えてしまった自分の「成人の日」を振り返っていました。

声ついでに蛇足ながら、最近、アニメの『平家物語』全一回が放映されました。私はアマゾンプライムのビデオで観たところです。キャラクター原案は私の好きな漫画家・高野文子、監督は京アニで『聲の形』等も手掛けた山田尚子です。

放火事件の難を逃れて活躍を続けています。『平家物語』現代語訳は自身文学作品の朗読も手掛ける古川日出夫のもの。

さて、今日の主役・樋口一葉は、『たけくらべ』『にごりえ』等、珠玉の作品を残し、二四歳でこの世を駆け抜けます。明治中期に、貧しい「女所帯」を、原稿「一葉（一枚）」わずか二五銭で背負う彼女は、「女流」職業作家の草分けでした。先ほどの幸田弘子さんもそうですが、何かを始めた人ほどすごい人はいません。それは想像を絶することです。

一葉の本名は「なつ」、元々充てられていた漢字は、奈良の奈に大津の津の「奈津」。一葉はペンネームです。その由来は原稿用紙一枚の一葉ではないのですが、原稿料の安さとは関係していません。中国禪宗の祖・達磨大師が揚子江を芦の葉に乗って下ったとの故事を踏まえつつ、自嘲気味にユーモアを込めて詠んだ歌から来ているという説は有名です。↓資料

「我こそはだるま大師に成にけれ とぶら（巾）はんにもあし（お足…香典）なしにして」。この時、なつ二〇歳。既に父を亡くし、今や貧しき家

の家計を担う決意をもつて原稿「一葉」わずか二五銭、著作権料なしという厳しい作家業。女性のために女学校は創られていましたが、多くは良妻賢母教育が中心で、女性の地位や活動範囲が厳しく制限されていた時代です。そんな時代に、樋口なつは四歳一〇か月で公立の本郷小学校に入り、さらに私立の二つの学校に学び、高等科第四級も首席で了えるのですが、母親より「女性に学業は不要」と言い渡され、上級学校には進まず退学しました。幸い、父親が彼女に和歌を習わせ、歌塾「萩の舎」に入門、古典の素養を身につけます。後には紫式部『源氏物語』を講じるまでに。

この塾で、同じ「なつこ」ということで、「い夏ちゃん、ひ夏ちゃん」と呼び合うことになる親友・伊東夏子と出会うのです。漢字表記も春夏秋冬の「夏子」と好んで表記するようになります。公家・大名、また明治政府関係の夫人・令嬢が通うその塾で、没落士族である伊東夏子らと共に「平民三人組」を結成、塾では給仕を担い、互いに励まし学ぶのでした。

この「萩の舎」に、樋口夏子と並ぶ才女がいました。旧幕臣で元老院議員を父に持つ田辺龍子

（花圃）で、女子としての最高学府であった東京高等女学校（現・お茶の水女子大学）を卒業、後には歌塾「萩の舎」の師・中島歌子の後任として日本女子大の和歌教授となる人物。お嬢様は一葉の面倒を見る半面、屈託なく一葉を貶めるような批評を残しています。

この田辺花圃、後に哲学者・三宅雪嶺と結婚して三宅龍子となりますが、その「一葉評」にがまんならなかったのが、「い夏ちゃん」こと伊東夏子、その頃には結婚して、こちらが田辺姓となっています。田辺夏子は親友の名誉を守るために『二葉の憶ひ出』一九五〇を書き残しました。私は、二週間ほど前、初めて読んだところです。

伊東夏子は、熱心なクリスチャンで、YWCA（キリスト教女子青年会）の活動もしており、樋口夏子もキリスト教を身近に経験することとなります。深くキリスト教に踏み込みませんでした。伊東夏子から頼まれて、賛美歌の訳詞をしており、なんと、当時の賛美歌集の一曲として出版までされています。出版までされていることは最近知りました。↓資料

英語は出来なかった樋口夏子ですが、伊東夏

子に導かれつつ翻訳に苦勞したことは、一葉の日記にも書かれています。三〇年程前に手に入れた一葉研究者・和田芳恵編注『一葉青春日記』一九五六初版によつてですが。昨年、讚美歌研究者・手代木俊一『日本における讚美歌』に「樋口一葉と讚美歌」が所収されており、改めて注目したところです。

ここで、伊東夏子のキリスト教信仰に触れておく必要があります。彼女はキリスト教主義の駿台英和女学校に通うことで信仰に触れます。同校の校長は、アンナ・H・キダーです。キダーと言えばフェリス女学院創立者が思い浮かびますが別人です。アンナ・キダー校長の、威張らず、貧しい者を蔑まない人格が夏子を信仰に導きます。↓資料（表の下段）

先述の『一葉の思ひ出』中で、田辺夏子は「英和女学校々ミスキダ」について語ります。家制度の時代、舅姑小姑多い家に嫁ぐ生徒には、キリストのように「人に仕えるのは美しいこと」と応援し、豊かでない日本女性が着物を自分で新調するのを褒め、自らは「見にくくない程度」の服を着て、「軽井沢を知ら（ぬ）」宣教師だったと。

「ミスキダの生徒で、社会に進出して、有名になった婦人は、一人もありませんでした」とも。でも、そこに卑屈さはありません。今日朗読された聖書では、イエスの弟子たちが「自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか」と議論して、イエスから譽<sup>レ</sup>を買いいます。イエスは静かに言います。「わたしはあなたの方の中で、いわば給仕する者である」。正直、田辺夏子の一文を読むまでは、「い夏の信仰は一葉に影響しなかった」と思っていました。しかし、貧しい境遇の者の哀しさと、なお失われない自尊感情への共感を滲ませる文学を著わした一葉のが親友として心許したのが、この「キダー譲りの信仰」を持つ人物であることを知った時、妙に納得させられたのです。

ここから後半です。樋口一葉つながりでもう一人の人を紹介したいのです。樋口一葉の肖像画では生活感溢れる鍋<sup>かま</sup>清水<sup>しみず</sup>方の「一葉」が有名です。ただ、私は小倉遊亀が一輪挿しに入れようと、水仙ひと莖<sup>くき</sup>を手に取っている画「一葉女史」が好きです。水仙は『たけくらべ』では、現実には結ばれない美登里と信如との心を結ぶ花です。

女流画家の先駆者の一人となる小倉遊亀は幼い

頃から絵心を持っていましたが、美大でなく奈良女子高等師範学校（現・奈良女子大・西のお茶の水）に進んで卒業すると、お礼奉公に教師を務め、やがて、先生をしながら絵の修行をするつもりで、あるキリスト教主義のミッシヨンスクールで教えるようになります。横浜の英和女学校でした。

ただ、クリスチャンではないので、教会には足を踏み入れませんでした。そんなある日、校長のミスカムバルス（後で本当の発音を紹介します）に呼ばれます。遊亀先生は、自分が教会に入らないことで怒られるのだと思い、ビクビクして校長室のドアをノックし、中に入ると、校長は満面の笑みでこう言ったのです。

「あなた、絵、描きますね。牡丹の絵、毎日毎日描きますね。牡丹の花、神様。だから、あなた描く絵、神様の絵。あなた、毎日毎日、神様を描いているのです。教会に出ないこと、なんでもない。なぜなら、あなたは毎日、神様に逢<sup>あ</sup>つてるから」。小倉は涙があふれそうになりました。校長の心に、また、絵を画くことが神様に逢うことであるということに。

そして、ようやく気が付きます。彫刻家が、ひとのみひとのみ仏像を彫るように、絵を画くということは、神様を画くということなんだ。猫を画いても、子どもを画いても、器を画いても、梅の花を画いても、それらは全部、神様を画くということ。だから、ひと筆ひと筆、怠けることはできない。

キリスト教を押し付けるのではなく、遊亀を遊亀のままに認め、愛し、大切なことに気づきつけを与えたミスカムバルスとは一体何者だろうと、調べてみると、Clara Adra Converse（クララ・エイドラ・カンヴァース）でした。カンヴァースと聞くと名前だけはおぼろに知っていました。彼女は、宣教師で、横浜の英和女学校の第二代校長です。

そして、不思議なことです、バプテスト派が東京の駿台英和女学校（キダーの学校）を閉じて、全国の三つの学校に力を入れたうちのひとつだったのです。一つは仙台の尚絅、一つは姫路の日ノ本、そして、横浜の英和女学校、現在の捜真学院だったのです。捜真関係の資料にも、小倉遊亀のことが載っています。

小倉、小倉と言いましたが、彼女が捜真の教師として勤めていたのは一九二〇年から三六年の一年間で、その頃は溝上ゆき先生。ついでは、漢字の「遊（ぶ）亀」は父親がつけてくれたもの。「亀が手や足をゆったり動かして遊んでいるような、そんなおおらかな人生を」という思いが込められているのだそうです。実際、後年の画はそのような風情に。

さて、捜真で教えながら、画で身を立てる思いは断ち難く、当時を代表する日本画の大家・安田靉彦の門下生となります。そこで、遊亀は生涯を通して大切にすることになる言葉をもらうのです。それは、「一枚の葉が手に入れば、森羅万象何でも手に入る」です。一葉に宇宙の神秘の全てが表現されているとすれば、それを疎かにすることはできないと知ります。

この中には、将来、幼稚園教諭や保育士を目指している人がいると思いますが、私の子どもたちが保育園に通っていた頃、親として嬉しかったのは、保育士の先生方が「おたより」に書き留めてくださった子どもらの発した言葉です。とりわけ、子どもたちが絵本に基づく一つの劇を作り上

げて行く過程での「おたより」には心動かされました。

絵本を読み聞かせ（朗読し）た後、役決めのオーディション。こどもら一人一人の言葉が拾われます。その心の動き、友だちや先生に共感して行く様が、手に取るように見えました。改めて、ああ、担任の先生はまさに「一枚の葉」に心留め、心から給仕してくださることで、「いのち」の宇宙というものを目の当たりに示して下さったのだと思うのです。

さて、教会や礼拝、キリスト教だけでなく宗教というものは、大人の世界に入りながら、同時に、子どもの世界を持つこと、遊び・祭り・浪費に繋がっているように思います。あの大人の世界に入る際の切実な危機感を知っているからこそ、あるいは、その危機感に目を閉じて、耳を塞いで、急ぎ足に入って行こうとする危うさをどこかで察知しているからこそ。

皆さんは、教会は信じれば救われる、信じないと救われないと教えている場所だと思っているかもしれません。キリスト教の学校も。でも、夏子や遊亀が経験したように、決して、そんなことは

ありません。まず、この世の様々な問題に、真剣に向き合って、自分たちに何が出来るだろうかと問い、共に考え、動くうながしを得る場所です。

それと同時に、厳しい現実を前にして、閉塞感、諦め感を抱いてしまう私たちが、そのただ中で、それらに飲み込まれない自由な自分、自由な私たちを感じ合える場所、お祭りの食卓を皆で囲み、踊り、歌い、そのことを通して、目の前の現実も絶対ではないと、ほんの少し解放され、世間へ向かって行ける、そんな場所・時間なのです。

最後に、小倉遊亀の代表作「徑」に流れる思いを、彼女が記したものを紹介して終わります。『画室の中から』一九七九より

「明るく、温かく、楽しいもの。

草にも木にも雲にも動物にも、通い合う愛の  
こころ。

生きることの喜びを感じ合うすこやかさ。

そんな思いにみちた世界が描きたかった。

同じ速力で、あわてず、あせらず、安心した  
状態で、

歩いているということさえ意識しない

一連の女、子供、犬が無心に歩いて行く、

明るく霽れた丘の径である。」

(二〇二二年五月二四日)

## 自分の良いところ、気づいてる？

短期大学保育科 教員

榎 林 鈴 子

皆さん、おはようございます。保育科の榎林です。今日はこの場をお借りして『自分の良いところ、気づいてる？』というテーマでお話をさせてもらいたいと思います。

さて、早速ですが最初の質問です。皆さんはこう思ったことはありませんか？「私は○○ちゃんみたいに賢くないし……」「私なんて何をしても上手くいかないし……」「自分に良いところなんてない……」。いかがでしょうか？何か失敗をしたとき、他人と自分を比べたときに「私なんて」と思った経験はありませんか？

次の質問です。もし、あなたが「あなたの短所を教えてください。」「あなたの長所を教えてください。」聞かれたときにどちらの方が答えやすいですか？これ、よく就職活動の採用試験で聞かれる質問ですよ。自分の長所と短所、どちらが答えやすいですか？長所の方が答えやすい人も

居ますし、短所の方が答えやすい人も居るでしょう。

生きていれば自分の短所が目につくことがあります。「私って、何で言いたいことが言えないんだろう。」などと思い、自己嫌悪に陥ることもあります。自己嫌悪になると、自分に自信が持てなくなったり自責の念にかられたりすることがあります。そんなときに皆さんにしてほしいことがあります。それは、その短所を長所として言い換えるということです。例えば、『周りが見えない』と言えば短所になります。でも、『集中力がある』と言えば長所になります。「言いたいことが言えない」はどうでしょうか？『思いやりがある』とすれば長所になるでしょう。つまり、『周りが見えない』と言うか『集中力がある』と言うかは、その場の状況やその人の価値観によって変わってくるということです。グループワークをしているときに自分の作業だけに取り組んでいれば周りが見えないと言われますが、自習の時間に一人でじっくり勉強に取り組んでいれば、それは集中力があるとなります。

す。長所や短所って実は曖昧なものですね。自分の性格や特性を短所だと捉えて気分が落ち込むのであれば、ちよっと見方を変えて長所として捉えるようにすると良いかもしれません。このように、物事を見る枠組み（フレーム）を変えて、異なる視点で見ることをリフレーミングと言います。是非、皆さんもゲーム感覚でリフレーミングをして下さい。

では、最後に自己評価と他者評価についてお話しをして終わりにしたいと思います。自己評価は自分の学習や行動、性格、意欲などを自分自身で評価することという意味です。自分がどう思ったか、自分がどのように感じたかを明らかにすることです。一方、他者評価は自分の学習や行動、性格、意欲などを他者が評価することという意味です。他人が自分を見てどのように思ったか評価するということです。他者評価も先ほどの長所と短所同様に、その時その場によって変わってくるものです。他人からどう見られているかを気にして一喜一憂するのではなく、自己評価をして「ああ、自分って良いところ沢山あるな。」と気が付いて欲しいと思います。

自分自身のことを嫌いにならないでください。今日まで生きてきた自分のことを思い切り褒めてあげてください。自分の一番の味方は自分であってください。大学生生活の中で、「私にも良いところある！」と言える機会が増えることを願っています。

（二〇二二年六月一四日）

## 前学期終業チャペル

### 組織について

短期大学副学長／現代ビジネス学科 教員

水 代 仁

#### 1. 組織の定義

アメリカの経営学者であるチェスター・バーナードは、組織を以下のように定義している。

「組織とは、二人またはそれ以上の人間の意識的に調整された行動または諸力のシステムである」

意識的に調整された行動または諸力のシステムであるという箇所は、共通目的を達成するために組織内部で役割分担がなされ、それぞれの活動が調整されている。すなわち、「分業」と「調整」がなされているということ意味する。それに対して、集団は、偶発的に同じ時間、同じ場所に人々が集まっている状況であり、集団内の人々はそれぞれが完全に独立しており、なんらかの目

的達成のため協働作業を行うことはない。「組織」と「集団」は異なるものである。

#### 2. 組織の三要素

バーナードは組織が成立するために必要な条件として、「共通の目的」、「協働への意思」、「コミュニケーション」の三つを挙げている。

##### (1) 共通の目的

組織全体が同じ目的意識を持って何かに取り組むということである。また、組織は共通目的を達成するために存在するとも言える。したがって、ある組織の構成メンバーになるかどうかは、共通目的に共感できるかが判断材料になる。就職先を選ぶ際、その組織の共通目的を確認することが大切である。組織がどのような目的を持っているかは、保育園なら保育理念、幼稚園なら教育理念、企業なら経営理念、施設などは基本理念などを見ると、そのベシッくな考え方を知ることができる。将来、就職先を選ぶ際、その理念に共感できるかどうか、鍵となる。

##### (2) 協働への意思

これは、組織への貢献意欲、あるいは、やる気、

また、モチベーションと捉えても良い。組織に所属し、モチベーションが上がるか下がるかは、組織から受け取る報酬と自分の組織への貢献度との関係に左右される。組織への貢献度より報酬の方が大きければ、モチベーションは上がり、逆に組織への貢献度より報酬の方が小さければモチベーションは下がってしまう。モチベーションが下がった状態が続くと、組織に所属する意義を見出せなくなり、その組織から去るという決断をすることもある。

モチベーションを高い状態で維持するには、組織から受け取る報酬が要因となる。報酬は大きく二つに分けることができる。一つは外的報酬であり、外から得られる報酬を意味する。例えば、給料、表彰、昇進、福利厚生などが該当する。二つ目は内的報酬であり、仕事そのものから生まれる報酬（仕事の面白さ・達成感、職場での人間関係の良さ、自分の能力を発揮できる、自己成長など）である。外的報酬は適度であること、内的報酬は大きいこと、これが最適な状態である。外的報酬が大きすぎるとモチベーションが低くなるという実験結果もある。

就職活動をする際、求人票を見るであろう。求人票には外的報酬について多く記載されているが、内的報酬については把握することが難しい。インターシップ、実習などで実際に職場を経験してみる、あるいはそこで働いている先輩がいれば、話を聞いてみるなど、内的報酬について調べたうえで、就職先を決めることが望ましい。

### (3) コミュニケーション

メンバー間で情報を共有し、意思の疎通を図ることである。このコミュニケーションについては、企業に対するアンケート調査結果を参考に説明する。

「コミュニケーション不足が業務の障害になるか」の問いに対し、「大いにそう思う」と「ややそう思う」と答えた企業を合計すると、九五%にも及ぶことがわかる。具体的に「どのような業務障害があるのか」の問いに対しては、「部門間・事業所間の連携が困難になる」を筆頭に、「目指す方向への認識の統一」と「業務へのモチベーションの維持向上に障害がある」と指摘されている。これは、先ほど説明した内容に照らし合わせると、「目指す方向への認識の統一」は「共通の

目的の共有」に該当し、「業務へのモチベーションの維持向上に障害がある」は「協働への意思」に該当することがわかる。コミユニケーションは、組織に不可欠な要素のベースになっていることがわかる。

組織がうまく機能していない、あるいは、なんだか、ぎくしゃくするといった場合には、この組織に不可欠な三要素を思い出し、その原因を探っていただきたい。

(二〇二二年六月二八日)

## 後学期始業チャペル

### 何もないところからのスタート

松山東雲学園 宗教主事／中・高教諭

水 島 祥 子

マーシャ・ブラウン／こみやゆう『せかいいいおいしいスープ』岩波書店、二〇一〇年。  
粗筋……………

お腹をすかせた三人の兵隊が、ある村へやってきました。

兵隊たちは丸二日間も、何も食べていなかったで、この村で何かご馳走してもらおうと思っていました。

兵隊を見かけた村の男は、急ぎ帰って、兵隊が来ることを村中に知らせます。

村人たちは、大慌てで食べ物を探しました。

兵隊たちは、村の家々を訪ねます。

けれどもどこでも、ご馳走するものはない、泊らせる寝床も空いていないと、断られてしまいました。

三人の兵隊たちは、相談しました。

そして……、なんと石のスープを作ることに!!  
村人たちに、お鍋を貸してくれるよう頼みました。

石でスープが作れるなんて!!

村人たちはびっくり!!

見なきゃ損と、村一番の大きなお鍋を用意して、バケツで何杯の水を汲んできました。

大鍋には、石が三つ入れられ、火がかけられました。

それから兵隊が、

「どんな スープにも、しおと こしように

かせませんな」

という、村人は塩とこしように持つてきました。

「こんなに いい 石なら、これだけでも う

まい スープに なるだろうが、もし ここに

にんじんが はいれば、もっと おいしく なる

んだがなあ」

兵隊がいうと、村の奥さんは、布団の下に隠していたにんじんを、たくさん持つてきました。それから、キャベツに牛肉、じゃがいも、大麦、牛乳。兵隊たちが、石のスープにあつたらもつと

もつとおいしくなる材料を口にするたびに、村人たちは、せつせと運んできました。ただの石から、お金持ちや王様の食べるようなスープができると聞けば、魔法のようです！

ついに石のスープはできあがり、大きなテーブルが用意され、村人たちもいっしょにテーブルを囲むことに！

「こんな うまそうな スープを たべるなら、パンとにくと——それに さけも いる！」

石のスープを囲んで、大宴会のはじまりです!!

みんなすっかり満足し、兵隊たちは感謝され、牧師様や村長さんの家に泊めてもらって、翌朝は、感謝感謝の内に送りだされましたとさ。

.....  
これは「石のスープ」というお話で、世界中にこれと似た民話が存在すると言われています。

さて、本日の聖書箇所は、地中海世界が世界中とされていた紀元一世紀に、多くの貧しい者が持ち得ないローマの市民権を持っていたエリートなユダヤ人であったパウロが、ギリシャの大きな港湾都市コリントの教会に宛てた手紙です。パウ

ロは元々キリスト教徒を迫害していましたが、その最中に、十字架ですでに亡くなったはずのイエスが呼びかける声を聴き、突然目が見えなくなりましたが、パウロが迫害していたキリスト教信者の一人、アナニアから頭に手を置いて祝福してもらうと、元通り目が見えるようになり何と洗礼を受けてキリスト教徒になった「目からうろこ」の言葉の由来となった劇的な体験をした人物です。

そのパウロは、その後、地中海狭しと宣教旅行に三度も出かけ、旅先からも多くの手紙を送っています。コリントの教会の人々は、キリスト教の中心的な教会であるエルサレム教会の人々が、キリスト教徒であることを理由にローマ帝国の支配下で迫害されて経済的にも苦しんでいるとパウロたちから伝えられ、自分たちも献金を集めようということになりました。ところが、その熱意は続かず献金の集まり具合がどうも良くないのです。そこでパウロがこう伝えるのです、「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのだと。そしてすでにイエスもそういう生き方をして見せたでしょう、「彼は惜しみなく分け与

え、貧しい人に施した。／彼の慈しみは永遠に続く」それは今も続けられ分け与え続けてくれているでしょう、だからわたしたちもその恵みに応えて生きていくのですよ、さあ自ら進んで献金をしよう、と呼びかけるのです。

先ほど「石のスープ」のお話を絵本で見ていただきました。兵隊たちには何も渡すまい、と最初はそのつぼを向いていた村人たちが、石のスープに興味を示すことで次第にスープが出来上がっていく様、出来上がったスープを囲んで皆で宴会をする様に、わたしはこれぞ神の国の世界が現れていると感じました。小学四年生の娘に絵本の読み聞かせをすると、「皆が持つてきているだけやん」と突っ込みを入れていましたが、真実を突いていると思いました。村人たちも次第にわかってきたのです、食材のすべては自分たちが持ち寄ったものであることに。

東雲中高のYWCAでは、生徒の有志が毎月二つの子ども食堂にボランティア参加をしています。一つは三津教会子ども食堂、もう一つは畑寺福祉センターでのアゴラ子ども食堂です。今は感染症対策のために手作りのお弁当をフードドライブ

プの食品と一緒に持ち帰ってもらうという形で持たれています、そこにもフードドライブやお弁当の食材を提供くださる業者や個人があり、献立を考え実際に調理をする努力を持ち寄る人があり、申し込んで受け取りに来られる人があります。「石のスープ」のお話のように、自分の持ち物や労力を少しずつ持ち寄ると、不思議なことに王様が召し上がるスープが出来上がり、兵隊たちはたらふく食べて温かいベッドで休むことができたのでした。

わたしたちの学園の成り立ちを振り返ると、最初はこの村人たち同様に、女学校を作るという主旨には賛同するものの、援助してくれる者は皆無に近いものでした。わたしたちの女学校よりも先に誕生していた松山中学校までもが、災害復旧のため県の財政危機に瀕して閉校していた時代です。生徒数の減少やキリスト教に対する逆風の中でも、何は無くとも大切にしてきた建学の精神、キリスト教教育の灯を守り続けてきたからこそ今まで地域に立ち続けているのです。さあ、今こそ「石のスープ」を作るときです。丸いすべすべし

た石を持ち寄りますか？ 人參を持って行きますか？ 塩こしょうを持って行きますか？ 「各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしよう」と心に決めたとおりにし」ていきましょう。

（二〇二二年一〇月四日）

# 聖書って面白い!?

—— 映画・アニメと聖書の親和性

短期大学保育科 教員

## 加 納 章

皆さんは聖書を知っていると思いますが、全部読んだことはありますか？旧約聖書と新約聖書に分かれてはいますが、全部で約一、七〇〇ページもあるので、読破するには相当気合いを要するかもしれません。そもそも、聖書を面白い読み物だと思っていないかもしれませんね。今日はそんな聖書が実は、身近なアニメや映画に隠し味として盛り込まれているところを紹介していきます。そして、聖書って面白そうだなと少しでも思っただければと思います。

まず手始めにエヴァンゲリオンから。作中に出てくる使徒の名前がまさしく聖書から来ているものになります。「第1使徒アダム」の名前が聖書の天地創造の中で一番最初に神が創造した人間の名前から来ているようです。ONE PIECEの中に出てくる木「宝樹アダム」と「陽樹イブ」にも同

じように神が創造した人物の名前が付けられています。「使徒」という言葉自体も新約聖書で描かれているイエス・キリストの弟子の「十二使徒」に由来しているようです。

また「生命の実」や「知恵の実」という言葉が出てきますが、これもまさしく、創世記の中に出てくるエデンの園に置かれた二本の木と同じ性質を持っています。それぞれの木の名前も「命の木」と「善悪を知る木」というように似ています。ONE PIECEというアニメの中に描かれている、「宝樹アダム」と「陽樹イブ」も同じような性質を持っています。

エヴァンゲリオンの使徒が持っている「ロンギヌスの槍」と言うものがあります。実はこの槍、イエス・キリストが十字架につけられた際に、イエス・キリストの生死の確認のために兵士が心臓を槍で突くのですが、その兵士の名前が「ロンギヌス」と言われており、その槍を「ロンギヌスの槍」と呼び聖遺物として残されているものに由来するようです。最後のとどめを刺すという意味をどちらも持っています。

またこの槍は昔から絵画の題材として用いられ

ていました。ルーベンス作の「キリストの磔刑」という作品の中に描かれています。他にも絵画に描かれている聖書の物語はたくさんあります。では代表的なものを見ていきましょう。

ミレー作の「落ち穂拾い」は旧約聖書の「ルツ記」のワンシーンを描いているものです。素敵な嫁姑の物語です。

次のレオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晩餐」は皆さんよくご存じなのではないでしょうか？新約聖書でイエス・キリストが十字架にかけられる前に、最後に十二使徒たちと食事をしたシーンを描いた作品です。

最後はブリュゲル作の「バベルの塔」です。旧約聖書「創世記十一章」に書かれている物語に出てくる塔を描いた作品です。人々がバベルの塔を建てているときに、このまま天にも届く塔を建てれば我々も神になれるのではないか？と人々は考えました。それを見た神が怒り、人々の言語をいくつにも分けてしまいました。言葉が通じなくなってしまうから協力して塔を建てる作業などできるわけありません。そして、ついにバベルの塔は完成することなく人々が散っていった

わけです。この出来事がなければ外国語は存在せず、外国語の習得に悩まされることはなかったのかもしれないね。

実は聖書には作品の題材になるだけではなく、悩んだり迷ったときに、方向を示してくれたり勇気をくれる言葉がたくさんあります。今日は加納が好きな言葉を一つだけ紹介します。

旧約聖書「伝道の書・コヘレトの言葉 三章 一節」から

「神のなされることはその時にかなって美しい」  
(口語訳)

「神はすべて時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなされる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。」(新共同訳)

約半世紀生きてきて、いろんな楽しいこともありました。が、相当つらくてしんどいこともありました。その時には「なんでこんなしんどいこと……」と思っていました。その経験が今生きているうえでもの考え方の土台になっていたり、また、誰かの相談に乗るうえで役に立っていたりします。その時にはわからないけれど、その時々

の出来事は最後に美しい形となって表されている  
なあと今になって思います。皆さんも聖書やいろ  
んな書物から好きな言葉見つけてみてください。皆  
さんの支えになる言葉が見つかればいいなと思  
います。

最後に聖書から離れますが、頑張ろうと思える  
パワーソングをご紹介しますと終わりたいと思いま  
す。

(二〇二二年一〇月一日)

### 「My Life」

song by : HumpBack / 作詞 : 林萌々子

自分の足で立ちたくて 僕は今ここにいるんだ  
胸を張っていきたくて 僕は今ここにいる  
このままでいいのかと自問自答を繰り返す日々  
誰かの足跡をたどって歩きたいと甘えてた  
もう歩けないのだと弱音ばかりを吐いた日々  
薄っぺらい自分を隠して下を向いたまま笑う

(中略)

自分らしく歌いたくて 僕は今ここにいるんだ  
胸を張っていきたくて 僕は今ここにいる  
笑ってたって泣ける日もあるさ  
踏ん張ったってこける日もあるさ

(中略)

まだ 離さないで未完成の僕らにしか歌えない  
唄がきつとあるから その声で その体で そ  
のまま

## かいじゅうたちの野生の世界

～モーリス・センダックさく～

女子大学心理福祉専攻 教員

門田 リンダ恵

モーリス・センダックは、すべての子どもたちと同じく、この世は怪物で満ち溢れていることを知っていました。彼はまた、子どもたちがたくましく、そして何でも知っている、ということも知っていました。幼い子どもでも、親たちが彼らの主張を否定しても、両親を信じようとしないうです！ 子どもは、この世は怪物で満ち溢れていることを知っています。そして彼らは、怪物を手なづけるただ一つの方法が、怪物の黄色い目をじっと睨むことだと知っています。それも、まばたきをしないうで睨むのです。怪物に、誰が主人なのかを示すのです。

モーリス・センダックの書いた本「かいじゅうたちのいるところ」は、彼自身の子供時代をもとにしたものです。たった一〇の文、三八〇語しかない小さな本ですが、マックスという小さな少年

の大きな物語です。

あるインタビュの中で、センダックは次のように述べています。「子ども期とは、難しい時期です。たいてい、何かがうまくいきません。」センダック自身の子ども期も、多くのことがうまくいきませんでした。しかし、彼は、その多くの作品の中で、自分の子ども期の苦しかったことを、テーマとして用いることができました。

モーリス・センダックは、「全米芸術勲章」をはじめとして、児童文学に与えられる主な賞のほとんどすべてを受賞した絵本作家です。彼は、一九二八年―ミッキーマウスと同じ年―に生まれました。そして、彼の本の全体から感じられる危機感とは、リアルなものです。たとえば、「まよなかのだいどころ」という本の中では、ミッキーがケーキの練り粉の中に誤って落ちてしまい、三人のコックが練り粉をそのままかき混ぜて、ミッキーがそこから自力で抜けださなくてはならない、というシーンがあります。

センダックの両親は、アメリカに移住したポーランド系のユダヤ人でした。センダックが生まれた翌年、株式市場が大暴落をして、大恐慌が始ま

りました。センダックは、子どものころ病気がちで、死にかけたほどでした。彼はほとんどの時間をベッドで過ごし、他の子どもたちが窓の外で遊んでいるのを見ていることしかできませんでした。

センダックが覚えている最も早い記憶は、世界に衝撃を与えた恐ろしい犯罪でした。彼が四歳の時、有名なパイロットのリンドバーグの子どもが、誘拐されて、殺されたのです。この赤ん坊は、髪がブロンドで、美しく、あらゆるものに恵まれていましたが、しかしこの世の中は彼にとって安全ではなかったのです。センダックは、この事件を非常に恐りました。彼の父親は、センダックを安心させるために、床に野球のバットを置いて寝なくてはなりませんでした。彼が書いた「*Outside Over There*」という本は、この事件を、新しい結末にして作り変えたものです。赤ん坊は生きて帰ってくるのです。

モーリスの叔父のひとり、モーリスに向かつて、「誘拐犯は、君を誘拐したいとは思わなかっただろうな」と言ったものです。幼いモーリスは、「醜い自分には、誘拐される価値がなかったのだ」

と思って苦しみました。しかし、彼は最後にこのような叔父に仕返しをしたのです。「*Where the Wild Things Are*」という本に出てくる、醜い動物たちの一匹は、この叔父をモデルにしているのです。

一九四一年、一三歳になったモーリスは、ユダヤの成人の儀式の準備をしていました。しかしその儀式の当日、彼の家族は、ポーランドにいる親戚が全部ナチスに殺されたという知らせを受け取りました。喜びであるはずの日が、悲しみと涙でいっぱいになりました。ホロコーストの悲劇は、皆を打ちのめしました。彼の母親は、悲しみから完全に回復することはありませんでした。そしてモーリスは、母親が彼を愛さなくなったのではないかと恐れしました。

「*Brundibar* (ブルンディバル)」という本は、一九三八年のチェコの子どものためのオペラに基づいています（そのオペラは、もともとは、チェコのテレージエンシュタットという場所にあったナチスの強制収容所の子どもたちによって、五五回上演されたものです）。この本の中でセンダックは、ブルンディバルのキャラクターに、ヒト

ラーの口ひげをつけました（ブルンディバールという名前は、「マルハナバチ」を意味するチエコ語から来ています）。街の人々の多くは、黄色い「ダビデの星」を身に付けています。「働けば自由になれる」という強制収容所の看板まであります。この物語の最後で、みんな「悪に勝利はない」「友達が、われわれを強くしてくれる」と歌います。しかしブルンディバールは、その最後のセリフの中で、自分は必ず帰ってくると断言します。

センダックは、災いとはしたたかなもので、常に繰り返される可能性があることを知っていたのです。今日、最初に紹介した「かいじゅうたちのいるところ」にでてくる少年マックスにとって、難しい事は、自分の怒りと荒々しいエネルギーをコントロールするのを学ぶことでした。そして最初は、それはうまくいきませんでした。マックスが大暴れして、お母さんが「なんて乱暴な悪い子」と言うとき、マックスは「お前なんて食べちゃうぞ!」とお母さんに言います。すると、この人食いみたいな言い方に腹を立てたお母さんは、「自分の部屋に戻りなさい、夕飯は抜きよ!」とマッ

クスに言いつけます。マックスは、お母さんの愛と夕食と、両方を一度に失ってしまったようです。

でもマックスは絶望しません。我慢するために、かわりに想像の世界へと逃げ込みます。マックスの部屋は、奇妙な森になり、想像上の怪物で一杯になります。でも、怪物の恐ろしい吠え声や、恐ろしい形相にも彼はひるみません。マックスが彼らの目を睨み付けると、怪物はおとなしくなります。このやり方で、マックスは自分の怒りも鎮めて、愛すべき「怪物たちの王様」となります。マックスはあらゆるものの中で最も強い存在となるのです。

マックスが私たちに示してくれているのは、私たちが自分自身や、自分の住んでいる世界の王となるためには、まず自分の中に住んでいる怪物をなだめる必要がある、ということなのです。そして、自分の中の怪物をなだめることによって、マックスは、だんだんに自分の品性を高めて行くようになるのです。マックスは、お母さんが自分に対して持っている力と同じ力を、自分も、想像の中の怪物に対して持っているということを知ります。

そうすると、お母さんが前よりもずっと好きになり、とても会いたくなります。そして、「自分を誰よりも愛してくれている人、お母さんと一緒にいたい」と思います。マックスは、大暴れしたために夕食抜きで部屋に戻らされたけれど、彼はその苦痛に立ち向かうことが出来ました。―そして、苦痛に目を向け、それを楽しむことさえできたのです。そして、マックスが気持ちを静めて、それから自分の部屋に戻ると、まだ温かい夕食が、そこに置かれているのを見ました。彼は、お母さんが自分を愛してくれていることを実感しました。マックスは、想像力を用いて、彼に与えられた罰を道具にして、それを耐え抜いて成長することが出来たのです。

彼はお母さんに「ごめんなさい」とは言わなかったけれど、「怪物」に対する自分の行動を通して、自分自身の感情に気付き、それらをコントロールする方法を学びます。彼の反応は、破壊的でなく、建設的です。想像力を通して、マックスは与えられた罰をも喜ぶ事が出来ました。彼は、自分を成長させてくれる品性を作り上げることができたのです。

聖書の中で、聖パウロが「私たちの信仰がキリスト・イエスに固く結ばれていれば、どのような状況の中にあっても、どんな困難であっても、私たちは喜ぶ事が出来る」と言っている事が思い起こされます。ローマの信徒への手紙五章三―四節「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は練達を、練達は希望を生むということを。」マックスが母の愛に希望を感じる事ができたように、そのように私たちは神の愛に希望を感じる事が出来るのです。

東雲学園の元校長であったオリヴ・S・ホイテは、この聖句から「教育とは、つまるところ、品性を形成する事にあります」と言われました。彼女は、教育を通して人は品性を形成するのであると、信じていました。教育と品性の形成、この二つは車の両輪なのです。先生は、つぎのように信じておられました。人格教育とは、社会にはいろいろな危険が存在することを生徒たちが知る、そしてそれらに正しく対処する、そのための知識を与えるものである、と。品格を作り上げていく

(二〇二二年一〇月二五日)

ことによって、マックスは他の人々と影響し協力し合う事が、よりよく出来るようになりました。

もちろん、ほとんどの学生たちにとって、宿題をしたり、レポートを書いたりすることは、辛いことに思えることでしょう、でも学ぶことは冒険なのです。私たちは、チャンスをとらえたり、自分の限界を試したり、そして絶えず新しい高みへと達するように挑戦したりすることで、成長するのです。私たちが道徳的に責任ある、自制心のある市民となるのは、品性を通してなのです。なぜなら私たちが神の愛の中に、希望を感じる事が出来るのは、品性を通してだからです。神が在すなら、私たちには希望があります。

I would like to gratefully thank my friends Hiroko Isomura and one other, who wishes to remain nameless, for their generous help in translating this speech for me; and a special thank you to my colleague Hiroko Yoshimoto for her proofreading help and for encouraging me to do this in the first place. I could not have done it without all of them.

アドヴェント・チャペルⅠ

## 何もないところに現れる愛

松山東雲学園宗教主事／中・高教諭

水島 祥子

今日はアドヴェント・チャペルです。キリスト教ではクリスマスを迎える四週間前から、アドヴェント・クラウンツ（冠）にろうそくを一本ずつ灯す本数を増やしながら、クリスマスが近づいてくるのを楽しみに待ちます。四本のろうそくが灯されたら、イエスがこの世に誕生したことを祝うクリスマスになります。

そもそも、クリスマスはイエスの誕生日ではありません。イエスの誕生日は正確にはわからないのです。しかし、イエスの地上での行いが、生きる希望を失っていた人々を照らすような光に象徴されるものであったため、昼の時間が長くなっていく冬至のお祭りと一緒になって、現在の一月二五日をクリスマスにしよう、と決められました。

教会やキリスト教の学校、幼稚園や保育園で

は、クリスマスにページェントが演じられます。ページェントというのはイエス誕生の場面を劇にしたものです。イエス・イエスの母マリア・マリアのいいなづけヨセフの三人を「聖家族」と呼ぶこともあります。

わたしが火曜日以外に勤務している松山東雲中高では、毎年二期の終業日には終業礼拝に引き続いてページェントを演じます。登場人物としては、赤ちゃんイエスはお人形を用いますが、マリア、ヨセフ、天使、羊飼、羊、博士、これに聖歌隊も加わり、イエスの誕生を祝います。聖書から解き起こしたナレーションや場面に合う賛美歌、台詞によって台本が成立しますが、大切なのは設定です。もしかしたらわたしよりも皆さんのほうが、ページェントを通して「他とは変わっている」家族に示された神の愛に共感しているのかもしれないとすら思っています。

イエスは、誕生に際し何度も命の危険に晒されます。わたしたちは、イエスが誕生し、多くの人々に深い影響を与えて磔刑で殺されたことを知っています。その上で誕生物語を読むので、イエスの誕生は当然のことだと受け取ってしまいま

す。でも、イエスの誕生は決して簡単に成立しえない、リスクを多く伴うものでした。

そもそも、イエスが生まれた紀元一世紀のユダヤ地方はローマ帝国に支配されていましたので、ローマ兵が多く駐在する、言わば日本国内では女性への性暴力が多発している沖縄に似た状況でした。ローマ帝国への税金も収入の半分から三分の二までも支払わなければならない状況が続いており、庶民の暮らしはいつも貧しく、外国の兵士が多にいる不安と隣り合わせのものでした。庶民の多くは生きる希望を持ちづらい、そんな状況でヨセフはマリアの妊娠を知らされます。現代でこそ日本では「授かり婚」とも呼ばれて、祝福すべきこと、と受け取る風潮も出てきてはいますが、イエス誕生の当時のユダヤ地方では、結婚前の妊娠発覚は由々しき事態でした。なぜなら、律法違反であり、発覚すれば石打ちの刑によって処刑されてしまうことだったからです。マリアのいいなずけだった「ヨセフは（律法を守る）正しい人」と記されていますので、相当悩み、対処に困ったはずです。自分には身に覚えがないのに、マリアが妊娠しているとわかったからです。ヨセフがそ

のことを知った当初はマリアと縁を切ろうとしたのも頷けます。

マリアからすれば、いいなずけであるパートナーに相手を明かすことのできない婚約中の妊娠を知らされることになりました。律法が生活のすべての規範になっているところで、結婚前の妊娠、しかも相手はいいなずけではないという不貞が発覚すればいのちの保証はありません。また、パートナーであるはずのヨセフから、いつ婚約解消を告げられるかもしれないという危機も付きまといまます。加えて、ローマ皇帝の更なる重税を課すために行われる「住民登録」によって出産直前なのに長旅を強いられ、かつ身重な状態での移動だったためにやっと辿り着いた泊まるべき村の宿屋には健脚な者たちが先に到着しており部屋が一つも余っておらず、この状況を見かねた優しい主人のおかげで入ることが許された不衛生な家畜小屋での出産となりました。しかし、いのちの危険はこれで終わりではありません。出産直後も続きます。ユダヤの王ヘロデが新たなユダヤの王（イエスのこと）が誕生したと知った途端、自分の王位を脅かす存在はすべて抹殺すべきだと「二歳以

下の男児殺害」の命令を出したため、外国（エジプト）への長旅という波乱万丈の出産となりました。

たとえこれらのエピソードの幾つかがフィクションを含むものだとしても、イエスがよく無事にこの世に生まれたものだと感じさせられます。もし、ヨセフが律法を守るだけの「正しい人」であつたなら、イエスがこの世に誕生していなかった可能性が大きかつたでしょう。否、「正しい人」に反する行い、律法に背く行いでマリアに寄り添い続けたからこそ、イエスは誕生できたのです。

皆さんは、イエス誕生の場面を描くページェントで何をもって「聖」家族としますか。わたしは、私生児や片親、軍政権下の被害者、戦争などの暴力からの避難者、外国からの寄留者たちこそ、神が特別な祝福を置いた「聖」家族として今年もクリスマスを迎えたいと思っています。皆さんはどのような思いでクリスマスをお迎えになるでしょうか？

（二〇二二年一月二十九日）

## 二〇二二年度 チャペル・アワー行事

全学（火曜日）

司式 前学期 榎林 衿子（短期大学 保育科 教員）  
 後学期 蔵前 知美（女子大学 心理福祉専攻 教員）・学生有志  
 祈祷 水島 祥子（松山東雲学園宗教主事／松山東雲中学・高等学校 教諭）  
 奏楽 小池美知子（女子大学 子ども専攻 教員）・高井 郁代（短期大学 非常勤講師）

| 月 日      | 行 事 ・ 題                                     | 講 話 者                   |
|----------|---------------------------------------------|-------------------------|
| 4月12日(火) | 二〇二二年度前学期始業チャペル<br>（新入生歓迎チャペル）<br>「隣人を讃える」  | 女子大学・短期大学 学長 高橋 圭三      |
| 4月19日(火) | 〈イースター・チャペル〉<br>「卵の中身は何でしょう？」               | 松山東雲学園宗教主事／中・高教諭 水島 祥子  |
| 4月26日(火) | 「成人年齢引き下げに伴う消費者教育講座」<br>「薬物乱用防止」            | 愛媛県消費者教育推進専門員 橋本 伸一     |
| 5月10日(火) | 〈開学記念チャペル〉<br>「人間の基礎力と女性の品格」<br>学生総会・学生会認証式 | 松山東雲学園 理事長 小西 靖洋<br>学生会 |

|          |                                                                        |                                    |
|----------|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 5月17日(火) | 「学業に支障をきたすほどのアルバイト<br>成人年齢引き下げを機会に労働相談事例を学ぶ」<br>〈春季特別礼拝〉<br>「一葉と一枚の葉と」 | 愛媛県労働委員会 会長<br>松山大学法学部 部長<br>村上 毅之 |
| 5月24日(火) | 〈前学期防災訓練〉<br>「防災・減災へ！ 関心をもとう」                                          | 日本基督教団松山教会 牧師<br>上島 一高             |
| 5月31日(火) | 〈前学期防災訓練〉<br>「防災・減災へ！ 関心をもとう」                                          | 松山消防局地域消防推進課 主任<br>吉村 真子           |
| 6月7日(火)  | 〈「二宮邦次郎賞」授与式〉                                                          | 松山東雲学園宗教主事／中・高教諭<br>水島 祥子          |
| 6月14日(火) | 「自分の良いところ、気づいてる？」                                                      | 短期大学 保育科 教員<br>檜林 衿子               |
| 6月21日(火) | 〈四国インカレ結団式〉<br>クラブ紹介<br>学生会からのご案内                                      | 学生会                                |
| 6月28日(火) | 〈前学期終業チャペル〉<br>「組織について」                                                | 短期大学副学長<br>現代ビジネス学科 教員<br>水代 仁     |
| 10月4日(火) | 〈後学期始業チャペル〉<br>「何もないところからのスタート」                                        | 松山東雲学園宗教主事／中・高教諭<br>水島 祥子          |

|           |                                                                |                                                      |
|-----------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 10月11日(火) | 「聖書って面白い!?」                                                    | 短期大学 保育科 教員 加納 章                                     |
| 10月18日(火) | 「共通カリキュラム<br>【インディペンデント・スタディ】の紹介<br>～愛媛県愛南町での<br>地域連携事業の取り組み～」 | インディペンデント・スタディ<br>受講学生                               |
| 10月25日(火) | 「かいじゅうたちの野生の世界<br>～モリス・センダックさく～」                               | 女子大学 心理福祉専攻 教員<br>門田リンド恵                             |
| 11月1日(火)  | 〈秋季特別礼拝〉<br>「デートDV防止について」                                      | 愛媛県人権擁護委員<br>石丸ひとみ                                   |
| 11月8日(火)  | 「女性のからだに関する講話」                                                 | 愛媛助産師会<br>松山市保健所<br>小川加代美<br>植田 美玖<br>田内 菰子<br>樋之口実加 |
| 11月15日(火) | 「子どもキャラバンの報告」                                                  | 女子大学 子ども専攻<br>学生                                     |
| 11月22日(火) | 「オレンジリボン活動の取り組みについて」<br>「災害時におけるマイタイムライン」                      | 短期大学 保育科<br>学生<br>松山南消防署<br>山本 健太                    |
| 11月29日(火) | 〈アドヴェント・チャペル〉<br>「何もないところに現れる愛」                                | 松山東雲学園宗教主事／中・高教諭<br>水島 祥子                            |

|           |                                                        |                          |
|-----------|--------------------------------------------------------|--------------------------|
| 12月6日(火)  | 〈アドヴェント・チャペルⅡ〉<br>「インターシップ研修報告」                        | 短期大学 現代ビジネス学科<br>学生      |
| 12月13日(火) | 〈アドヴェント・チャペルⅢ〉<br>〈松山東雲学園同窓会「雪びら奨学金」授与式〉<br>「希望という未来へ」 | 松山東雲学園 同窓会 会長<br>菅田 栄子   |
| 12月20日(火) | 〈クリスマスチャペル 後学期終業チャペル〉<br>「大学の学びと実習」<br>学生総会・新学生会認証式    | 女子大学 心理福祉専攻<br>学生会<br>学生 |

黎明（しのめ）

（チャペル・トーク集九号）

二〇二三年三月発行

松山東雲女子大学

松山東雲短期大学

キリスト教センター



松山東雲女子大学・短期大学 キリスト教センター